いざという時必要なのは生きる知恵と人とのつながり。人間関係も発酵させていこうよ！

世界を股にかけるアーチストが
仲間たちと盆踊りCDをリリース

山口　愛さん

鎌倉より盆踊りのCDを作るという案内が来た。日本人の血の中にある歌と踊りは年齢を越え、立場や思想を越え、人と人とを繋げてゆく。そのPeaceで楽しい輪をこのプロジェクトから広げてゆくのだという。JEJU平和祭でもゆかたを来て盆踊りを踊っていた湘南のグループからの呼びかけで、彼らにはクロンビの映画を2回も上映してもらった。

その中のメンバーでJEJU平和祭にもミュージシャンとして出演していた山口愛さんにインタビューさせてもらう機会があり、盆踊りのCDを出すようになった経緯や湘南での暮らしぶりなどを聞かせてもらった。

―― 歌うようになったきっかけは？

愛 ● 中学生のときに友達でバンドをやろうという話になったんですが、私は楽器ができなかったのでボーカルをやろうかなと思ったんです。けど、その頃の私は人と話すのが苦手でとても内向的で。意外でしょ？（笑）自分を出したり意見を言ったりするのも苦手だったので、自分から話しかけられず、友達もそんなに多くもなかったんですけど、何故か歌うと、向こうから好意的に話しかけてくれるんですよね。その現象にびっくりして。おもしろいなーと思ったのが歌いだしたきっかけですね。

―― 今日のイベント（＊滋賀県での‘「戦争をさせない1000人委員会しが」主催のトークと音楽のイベント）でも話してましたけど、愛さんて体は細いのによく大きな通る声が出ますね。

愛 ● 高校のバンドやゴスペルで鍛えましたからね（笑）今はハスキーな感じですけど、もともと私すごく高い声だったんですよ。それが、高校生のころはまわりの子がロックをやってる人ばかりで、けっこう声をはりあげる系の歌が多くて。もう何回も声をつぶしてどんどん低くなりました（笑）授業が始まる前に毎日朝練してましたし。ゴスペルは大学に入ってからやり出しました。バイクで交通事故にあって入院した時に先輩がCDを持って見舞いにきてくれて、それが綾戸智恵さんて方のCDだったんですけど、衝撃受けちゃったんですね。それでちょうどライブがあるというので病院を抜け出して見に行って（笑）、それがきっかけでゴスペル隊で8年くらい全国を回りました。その後独立してソロに転向したんですが、その経験が今みんなで歌うっていう活動に役に立っています。

今は色んな方々が教えてほしいって言ってくださるので、ボイストレーニングのクラスやゴスペル教室をやっています。でも、ただ普通に教室をやるだけだと自分的にあんまり面白くないので、そこで頂いたお金をいろんな活動に循環させる試みをやっています。みんなが楽しんで喜んで私に預けてくださったお金というエネルギーをいい形で意味のある場所に使えたらいいなと。支援型というか循環型のお金の使い方ができるゴスペルコミュニティという形でやっています。

何かの活動一つとってみても、一人でやることには限界があるけど、みんなでやると楽しいし，自分が楽しくやってると一緒にやる人たちも何だか嬉しそうだし。

こないだはドネーションクラスのあがりを自然農をやってる人たちにお渡しして、そこで出来た無農薬無肥料の大豆を使ってみんなで味噌造りワークショップをやってみました。そうすると、共同作業の楽しさとか、普段買ってるものがこんな簡単に出来るんだ、っていう発見とか、どこでどんな人が作っているのか、ということへの興味とか、色んな楽しみや気づきが付いてくるんですよね。単純に自分が作った味噌を持って帰ってもらう、ってだけでも楽しいですけど、みんなが楽しく歌ったエネルギーがこんな風に面白い形でまわりまわってる、っていうのが自分的にも楽しいので、それの一つで今、鎌倉で盆踊りのプロジェクトがたちあがっているんです。

―― イマジン盆踊りというのはどうしてイマジンて言うんですか？

愛 ● 湘南界隈で原発を卒業しようというパレードをやってた団体があって。それが、「イマジン湘南」というグループです。世界のできごとってイマジネーションでいろいろ動いていくじゃないですか。それでよりよい未来をイマジンしていこうという意味の名前です。それでパレード中に盆踊りをやりながら練り歩くのをやってたんですよ。そこに友人が沢山参加していて、たまたま私、何曲か盆踊りの曲を演奏できたので、その話をしたら、そこに加わってよ～と言われて一緒にやることになり、その流れで逗子のピースフェ

次頁に続く

スティバルというイベントで一度生バンド盆踊りをやったら、ものすごい盛り上がりを見せたんですよ。

皆のエネルギーが一つになってぶわあ〜って繋がって広がるかんじで、会場が一体化したんです。それが去年の８月のことで、そこからみんなに火がついちゃって、秋に韓国で開催した JEJU 平和祭でもみんなで踊るのをやりたいという話になっていったんです。それでイマジン盆踊り部というのができたんですけど、鎌倉の人たちってほんと妄想族が多くて。

―― 暴走族じゃなくて？

愛 ● 妄想が爆走するかんじなんですけど（笑）。こうなったら楽しいよねとか、こういうことしたら面白いんじゃないかなっていうのをいつもあれこれ考えてて，それを形にしていくっていうのを日常的にやってる人たちなんです。それで盆踊りのことも、踊りでみんながつながってすごいいいエネルギーが生まれているのを見た瞬間、これが世の中を包んでいったら，凄く面白くなっていくんじゃないかっていう閃きみたいなものが見えたらしくて。で、その盆踊りの輪が世界中につながっていくイメージができて、パリの凱旋門だったり、2020 年には東京でオリンピックがあるでしょ。その会場をみんなで包むイメージが来たんだ！とイマジン湘南のメンバーが言い出して、ああそれは面白いねーって。じゃあ、日本全国同時多発盆踊りをやろう！という話をしてたんです。

みんなデモとかパレードをやってきた人たちが中心に動いてるんですけど、がんばって動いてた人とかはやっぱ疲れちゃう。なので、もっと楽しい形でみんながひとつになれないかな〜、と考えた時に、そういうことに興味のない人や、子供もおじいちゃんおばあちゃんも国籍や文化や言葉の違う人たちも一緒にひとつの輪になって踊るってことができたのが盆踊りだったんです。これをなるべく多くの人にかかわってもらえないかなと思って、じゃあ、まずＣＤをつくるところからだね、ってなって。それでクラウドファンディングをはじめました。

―― いつ頃から？

愛 ● やろう！という流れになったのは今年の３１１の後くらいです。

それで夜な夜なみんなでミーティングしたり、LINE やメールを駆使してどうやったら現実に形に出来るのかを妄想してわーっと発酵させていったんです。で、もう２作目とか３作目の話も出ています。2020 年まで１年に１枚作ったら、５枚で五輪の輪だね！とか。それにだんだんいろんな人に関わって

いってもらって、全国でやれたら面白いね、と。今回は「寺田本家さん」という千葉の自然酒の酒蔵さんともコラボレーションして皆で歌詞を出しあって発酵をテーマにした「発酵盆唄」というのを作ってみました。

発酵って何？って最初は思ってたんですけど、これが人間社会ととっても似てるんです。

菌の中には人間の都合で分類するとすると、いわゆる善玉菌、悪玉菌という菌の分別があって、そのどちらにも属さない日和見菌というのがいるんですって。それが菌の中で一番多いらしいんですけど。どっちにもつかずに様子を見てて、元気になった側にばっとつく。善玉菌が一番元気で自分たちの役割をうまく果たせる時に増殖して、なんかの物事が別のいいものに変わるのが発酵。逆に悪玉菌が多くなって腐ってしまうのが腐敗なんですよね。あれ？それ、人間にも当てはまるんじゃないかしら、って。みんなでわーいわーいって楽しそうにやって元気になれば、どうしようかなーって様子を見てる人たちもぶわってこっちに来る。それをやればいいんだって思って。その発酵をテーマに曲をつくって、人間関係も発酵させていこうよって。それぞれが自分の役割を 100％発揮したときに、それがいろんなものを包んでキラキラしていく状態。今どうなのかなーって思ってる世界のいろんな出来事を楽しい方向に持って行けたら最高じゃない？っていうのを発酵とかけてやろうと。

―― それはわかりやすいですね。やっぱり人は楽しいことには自然にひかれるし、やらなくちゃいけないって思っていてもなかなかやれないことがある。

愛 ● それを一過性の「わー楽しい」だけじゃなくて長い目でいい形でやれないかなと考えてるんですよ。で、思いついたことはどんどん試していこうと思ってるので、ひとまず自分たちの中でこれだと思ったものを形にしようと。

―― ＣＤをつくるというのは具体的でわかりやすいけど、それを６月に出すんですか？もう明日から６月ですよね。

愛 ● はい、明日からレコーディング開始（笑）でも私一人じゃなくてみんなでやろうやろうってそれぞれができることをうわっと一気にやってるので、すごいスピードで進んでるんです。ブックレットの中に入れる踊りの振りを全部イラストに描いてる人がいたり、クラウドファンディングを担当してる人がいたり、アートデザイン系を担当してる人がいたり、会計や日程調整やそこに関わる様々な仕事をみんな手作り、手作業で楽しんで全力でやっています。（＊予定どおり夏至の日にリリースしました）

★この日は滋賀県でのコンサートに出た後、夏至の日に出演する「耳なし芳一」の京都公演のチラシをくばるために京都のお店をいくつかまわりながらインタビューしたのだが、愛さんはそれ以外にもゴスペルを教えていたりソロやユニットでの音楽活動をしていたり、TV やラジオ出演のほか野外イベント、クラブ出演など様々な形で活動を展開しているという。またデニス・バンクスの Longest Walk に参加して平和セレモニーで奉納演奏をしたりベネズエラ、スペインなどでは大使館後援の行事に出演、カンボジアやフィリピンでは NGO のプログラムに出演するなど国内海外をまたにかけて活躍しているアーチストだ。

愛 ● よくいろんなことやってますねと言われるんですけど、根底にあるものは一ヶなんです。それは活動を通してみんなが楽しくつながること、世界中で起こってる複雑そうな様々な問題が実は自分の生活や生き方に直結していることを考える、ということをきっかけになればいいなと。全部がそこに行き着くんです。そして、それぞれの活動を私自身とても楽しんでやっています。

―― 湘南でも上映してもらいましたが、クロンビの映画について感想は？

愛 ● 泣きました。思いがそのままダイレクトに入ってくるというか、辺野古にも行ってるってこともあるかもしれないけど、そこの現場の人たちの気持ちがシンクロして‥‥。わかってるうちに入らないとは思うんですけど、私たちが想像するよりもっとずっとキツイ状況だろうし、いろんな思いがそこにあると思うんです。それに対して自分がどうい

→盆踊りＣＤのサイトより

うアプローチができるかというのもすごい考えます。もちろん現地に足を運ぶことも大事だし、こちらにいてできること、そして一人一人の生活が変わらないと何も変わらないということも思ってるので、自分に出来ることから。

自分たちが何気なく使ってるお金，消費してるもの、それらを何も考えないで使ってることでいろんな歪みが起きてるんじゃないかな、ということを、カンボジアに行った時にすごく思ったんです。それまで安い物を得したな、と思って買ってましたけど、その陰には過酷で低賃金の労働があったり、後進国と言われているところからの搾取が発生しての「安さ」なんだということに初めて気がついて。それまで知らなかったことがあまりにも多すぎるなと思ったんです。自分が生きて行く上で無責任だったし、ほんとなんも考えてなかったなというのがわかって、それを工夫したらもっと皆にとって気持ちいい形でお金やエネルギーをまわせるんじゃないか，とか、興味の持てる活動としてトライしていけるんじゃないか、とかそういうところにおもしろさを感じてたりするんですよ。

例えば、貯金が戦争産業に使われちゃう郵便局やメガバンクにお金を預けずに、地方の中小企業さんの応援になる信用金庫に預け先を変えてみたり、土や環境のことを考えるんだったら味噌づくり楽しいねってところから無農薬自然農法をやってる人に興味持ってくれたり、麹とか味噌って自分でつくれることに気づいたら、買わなきゃいけないと思っていたものが実は自分でつくれる、という喜びに変わったり。みんな病気になったりすると病院に行ったり薬をもらったりするけど、そこらへんにあるもので治すことが出来る昔からの智恵を学んだり、単純に何も考えずにスーパーで野菜を買うということからの卒業だったり、そういうことを考えるきっかけになったらいいなと野草教室をやってみたり。

え！そんなもんなの？ってことは生活の中　で結構多くて、それは楽しいしお金がかからない。もうそれで十分いいじゃないですかって思いますよね。すごいシンプルなことだなって思ったんです。それは何かあった時にも生きられる自信につながる。

野草一つとってみても、どれが食べられるかわかったら、スーパーで野菜買えなくなった時に「え、裏山あるし平気」って言えたらすごい強いなと。

―― ３１１のことでも、いつなんどき電気が来なくなるか，食べ物がなくなるかわからないなと思いましたね。

愛 ● これから自然災害とか起こりうることはたくさんありますけど、そういう時に必要

になってくるのは生きる知恵と人とのつながりなんじゃないかって思います。だからいかにみんなといい時間を過ごせてるかていうことが大事になってくるなーと。活動を通しての繋がりはとても強いし。人とつながってると安心ですよね。そして全国にそういう仲間がいると、なにかあった時にすぐ頼っていくことができたり、困った時に助け合いができる。そんなネットワークをいろんなところに作っていくのはすごく大事だなと思うんです。助けて貰ってありがとうって気持ちがわいたり、人に何かしてあげられてうれしいって思ったり。お互いありがとう！って言えるいい関係がいっぱいできればいいなって。

本質って実はとってもシンプルなんじゃないかなと思います。難しいことってコアな人にしか伝わらないし。シンプルなこととユーモアがあることがすごい大事だと思うんです。ネイティブアメリカンの酋長も、すごいシリアスな場面でどれだけユーモアを発揮してみんなを笑かして、的確に言いたいことを伝えるかというのが腕の見せ所なんだという話を聞いたことがあります。難しい話とか硬いテーマだとみんな真剣に硬ーくなりがちですけど、そこをいかにいい形で伝えていくかが大事だなーと思うんです

―― ところで愛さんはシェアハウスに住んでるそうですね？

愛 ● はい、葉山で。アーティストだらけのシェアハウスです。気楽で楽しいですよ。いつもたくさん人がいてワイワイしてて、毎日が正月みたいだねというので「正月ハウス」という名前です。今は４人で借りてるんですが、MAX の時は６人か７人いたかな。アーチストの友達とか面白い人がいっぱい集まってきて、家で草木染めやってみたり、麻炭のワークショップや味噌づくりやライブや誕生会や、いろんな会をやってて、地域の人たちが交流できる場所になってます。

―― そのシェアハウスにはいつから？

愛 ● 震災の直前なので、もう４年かな。私は地方や東京に出張行ってることも多いので半分以上いないんですけど、私がいなくても楽しいこといっぱいやってる素敵なおうちです。

葉山はわりかし生活のこととか衣食住に意識を向けてる人が多くて、人とゆるやかにつながってくことにも地域で取り組んでいたりします。「なみなみ」っていう地域通貨やトランジションタウン、という取り組みもあったり。

東京ではそういう人とのつながりというのがあんまり濃密じゃなかったんですけど、

―― 葉山の前は東京に住んでたんですか？

愛 ● 東京には 10 年近く住んでましたね。ライブをする場所やその関係の人とはつながるんですけど、地域の人たちとゆるやかにつながるというのはあんまりなかったです。家賃も高いし、私はイベントで地方にゆくことも多いから、ひとつのところにとどまる必要性があんまりなくて、それだったらゆったりと自然の中で暮らせて色んなことをわけあえるシェアハウスみたいなところがいいなーと思っていたらシェアハウスの話が来て。

―― やっぱり思ってると実現するわけですね。

愛 ● 実現しますね。無理矢理じゃなく、ぴぴっと来た方に動くとそういうかんじになります。●

盆踊りＣＤ　発売中！

クラウドファンディングで資金を集め、
予定通り夏至の日にリリースしました。

イマジン盆踊り部発酵
全５曲入り 20 分 32 秒
1,500 円（税込）
問合わせ：imaginebonbu@gmail.com
→ http://u111u.info/m4sB
＊ブックレットに盆踊りの踊り方イラストが満載
＊Youtube にて踊り方動画を配信予定。